

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第7回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・協議事項（公開）

（1）今後の地域協議会での取組事項について

・その他（公開）

3 開催日時

令和6年11月21日（木）午後7時00分から午後8時20分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：天野裕一、押見吉弘、金澤信夫、小林隆春、佐藤忠治、清水徳幸、
新保友美、竹田未貴、土屋郁夫、俵木晴之、横田佳奈子

（14名中11名出席）

・事務局：大潟区総合事務所 小池所長、池田次長（総務・地域振興グループ長兼務）
新保市民生活・福祉グループ長、丸山教育・文化グループ長、風間班長、
水澤主任

8 発言の内容（要旨）

【池田次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【土屋郁夫会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：清水徳幸委員に依頼

【土屋郁夫会長】

協議事項（１）今後の地域協議会での取組事項についての協議を行う。これからの方向性について正副会長案を作成し、事前に皆さんのところに送付させてもらった。私から説明する。

資料No.1により説明。

今年度は1つか2つのテーマで協議を進めたいと思うが意見等はあるか。

（一同無し）

【土屋郁夫会長】

では1つか2つのテーマで進めていく。

次に全体で協議するか、グループに分かれて協議するかについて意見等はあるか。前期で鵜の浜人魚館の活性化を協議したときには、2つのグループに分け、それぞれ進行、書記を決めて協議、報告していた。

【金澤信夫委員】

全体で協議するのがいいと思う。6期の地域協議会が始まってから、まだ本格的な議論をしていない。経験がない中でグループに分けても、意見が出てくるか疑問である。意見を出し合う経験があって、お互いを知ってからグループに分けたほうがいいと思う。

【佐藤忠治委員】

前期から引き続き委員となっているのは、会長、副会長、金澤委員と私の4人である。4人は協議方法などが分かると思う。地域の魅力向上と言っても、大潟区全体のことについて共通認識を持っているのかはわからない。地域の魅力向上であれば、地域の魅力の向上に取り組んでいるまちづくり大潟、九戸浜町内会、犀潟のだいばま会などを招いて、どういう思いで活動しているか、何が課題なのか、地域の魅力向上のために何に取り組みたいのかなどを共通に認識した中で、地域協議会でどう取り組めばいいのかを進めていくのがいいと考える。そうでないとグループに別れてもまとめ役が大変である。地域の魅力の向上に取り組んでいる団体の話を聞いて、当面は2つのグループで協議するのがいいと思う。他区の地域協議会を傍聴したが、自主的審議事項のテーマを決める

にあたり、区全体のことを知るために歴史に詳しい人からレクチャーを受けてから課題を挙げていく方法であった。柿崎区は4つくらいのグループに別れて協議している。大潟区は大潟区の実態に合わせて、皆が無理なく意欲が出るような取組みが必要である。

【竹田未貴委員】

全体場で意見を出すのはプレッシャーがあり話しづらい。グループに別れて協議の方が発言しやすい。ただ、全体で話を聞く機会が必要な場面もあるかと思う。

【押見吉弘委員】

悩んでいる。グループ協議にはグループ協議の良さがあり、正解は1つではないと思う。グループは休みの委員がいても一定の議論はできると思う。だが、停滞もするのでテーマは1つがいい。グループで協議するのであれば2つにする。グループ協議は、些細なことでも発言しやすい。新任委員が多いため、今までにない違った角度からの意見も期待できるのではないか。ただし、休みの委員がいる場合に一人の影響力が大きくなると思うので悩むところである。

【天野裕一委員】

佐藤委員の意見がいいと思う。捉え方が違うかもしれないが、グループ或いは全体で協議した後に各団体との意見交換をした場合、お互いの意見を言い合うだけになると思う。佐藤委員の意見の趣旨とは違うかもしれないが、まず、まちづくりに取り組んでいる団体がどのような行動をしていて、どのような問題にぶつかっているのかを聞いた中で、全体でもグループでもいいので協議するのであれば答えは出てくると思う。私だけかもしれないが、何に対して協議するのか分からない。思っていることは言い合えるかもしれないが、それがどこに繋がるのか。まちづくり等に実際に取り組んでいる団体がいるのだから、そこでぶつかっている壁に対してどのような意見があるかを我々が聞き出して、委員の中で協議して前に進んでいった方がタイムスケジュール的にもいいと考える。月1回しかない地域協議会で、あと何回協議できるのか、全員が揃う機会があるのか等もある。対象の団体が2つ、3つあれば、グループで分かれて聞いて、その後協議したほうがいい。テーマ的には、前期からの引継ぎ事項が1つになると思う。人数からすると時間もあるので、もう1つ加えて合計2つだと思う。全体協議かグループ協議かについては、意見が出やすいグループ協議がいいと思う。

【横田佳奈子委員】

私はグループのほうが話しやすい。団体が今まで取り組んできた内容が分からないということもあるが、8月の資料にあるように私たちが取り組んでみたい内容は挙がっている。それに対してどういった団体がリンクしているか、既存のものがあるのかも分からない。団体がすでに取り組んでいることがあるのなら、それについて聞いてみたい。今この時点で団体が取り組んでいることがあるのなら、今知りたいと思う。先に団体の取組み等を聞いたほうが分かりやすいと思う。10月の資料に掲載されていた団体で、我々が出した意見に当てはまる団体があるのか、分かる委員から教えていただきたい。

【新保友美委員】

事前に資料を見ていて、今日はテーマが決まるのだろう、自分はテーマを何にしようかと考えてきた。グループに別れて協議するほうが皆さんの声が聞けると思う。皆さんの意見を聞いて、活動している団体の話を全体で聞くというのに賛成である。仕事柄、知識として知っていることもあり、自分としてテーマはまちづくりと福祉と思って来たが、知らない委員もいると思う。そのため、全体で団体の話を聞いて、その後にテーマを決めるのがいいと思う。

【清水徳幸委員】

グループ協議の方が、ざっくばらんにいろいろな意見が出てくると思う。私は大潟区に住んで15年くらい経つが、まだ分からないことが本当に多い。例えば偉人で名前が挙がっていた笠原文右衛門氏については全く知らない。福祉についても全然分からない。詳しい方からの意見を全体で聞いてからテーマを決めて、グループに別れて協議するほうがいいと思う。ただ、グループで協議の場合、欠席者がいる中で役割を決めてしまうと負担も増えると思う。

【小林隆春委員】

私は大潟区に住んで50年近く経つが、大潟区の何を知っているかと言えば、恥ずかしいことに自分の住んでいる周りのことぐらいである。団体についても、自分が所属している鵜の浜温泉観光組合のことしか分からない。佐藤委員が言っていた犀潟のだいま会なども全然分からない。地域の魅力の向上、偉人、まちづくり、福祉と書かれているが、まずは我々が大潟区を知らなければならないと思った。そのためには大潟区で活動している団体等から話を聞く。例えば、地域の魅力の向上というテーマに絞ったとき

に、まずは専門の方に話を聞く。その時には委員からも質問等が出てくると思う。問題等の意見交換ありきではないか。そこからグループ協議に派生するのが一番いいのではないかと思う。

【俵木晴之副会長】

いろいろな意見を聞かせていただいた。原点に戻ると、当初皆さんから出していただいた意見は、それについて中身をよく知って、問題を解決していくということで挙げていただいた。各団体から来ていただいて話をしていただければ中身も分かるし、そこで課題も出てくると思う。ただ、ある程度の答えも出てきてしまうということも考えられる。テーマにもよるが、専門的な分野を委員だけで協議するのは難しいということもあると思う。まずは、テーマを1つに絞って、全体でそのテーマについて分かる範囲でいろいろな意見を出してもらい、分からないことや課題を質問しあっていく。最終的に分からない部分については、その段階で各団体に来ていただくのがいいと思う。

【土屋郁夫会長】

皆さんの意見を聞くと、最初からグループに別れるのは難点がありそうだと理解した。全体で進めるとしてテーマについては1つか、時間にもよるが2つまでかと思う。当初皆さんからいろいろな意見を出していただいたので、私としては2つに絞りたいと思う。副会長は、自分たちで出した範囲とテーマについて分からないこともあると言っていたが、それを団体から聞くとしても、すぐ来ていただける調整がつくかも分からない。2つを同時に進めておいて出てきた意見の中で、ある団体からどうしても話を聞きたいというのが絞れてくれば、そこを上手く段取りして、できれば私としては2つのテーマにして進めていきたいと思っている。副会長の話にあったように、どこまで深く協議するかは、意見の集めかたである。ここの場で協議するのもいいし、私が示したように2つのテーマがあって、今日出し切れなかったものについては、事前に皆さんから意見をいただき、どんどん集約して積み重ねていく方法もとれると思うので、私としては2つで進めてみたいと思うがいかがか。

【俵木晴之副会長】

挙手していただいて決めたらいい。

【土屋郁夫会長】

では、テーマは1つがいいと思う委員は挙手を願う。

(3人挙手)

2つのテーマがいいと思う委員は挙手を願う。

(7人挙手)

では、テーマは2つとする。

次に全体協議とするか、グループ協議とするかを定める。

【佐藤忠治委員】

最初に全体協議をするということか。

【土屋郁夫会長】

今日も含めてまずは2回くらい全体協議を行うということである。

【清水徳幸委員】

その後はグループに別れるのか。

【横田佳奈子委員】

どんなタイミングでグループに別れるのか。

【俵木晴之副会長】

グループに別れてできるかどうか分からない。

【土屋郁夫会長】

いや、できる。

【佐藤忠治委員】

同じテーマで2つのグループに別れるのか、別々のテーマを2つのグループがそれぞれ協議するのか。

【俵木晴之副会長】

2つなら別々のグループになる。そうすると難しいと思う。

【土屋郁夫会長】

では、2つのテーマを2つとも全体で協議するか、テーマが2つあるのでグループで1つずつ協議するか。

【佐藤忠治委員】

そうではない。最初は2つのテーマを全体で協議して、その後グループに別れて1つずつ協議するということだ。

【横田佳奈子委員】

2つのテーマを全体で協議するとすごく時間が掛かるのではないかと。団体に来てもらうにしても、2つのテーマに関わる団体からそれぞれ来ていただくことになる。

【土屋郁夫委員】

テーマを2つとしたので、それを全体で協議するのがいいのか、グループに別れて1つずつ協議するのがいいのか。

【横田佳奈子委員】

グループ協議の場合、どちらのグループにも伝わるように発表しあうのか。

【土屋郁夫委員】

発表しあう。

【横田佳奈子委員】

それであれば、どちらのグループのことも分かるということである。

【土屋郁夫委員】

深くは分からないが、ぼんやりと分かるということである。

【俵木晴之副会長】

1つのテーマについて1回の協議では終わらないと思う。

【土屋郁夫委員】

1回では終わらない。

【俵木晴之副会長】

この予定で行くと、そんなに時間がない。12月と1月しかない。

【佐藤忠治委員】

来年度もある。

【土屋郁夫委員】

意見書の提出を5月くらいと考えている。

【俵木晴之副会長】

そうかもしれないが、この予定で行くと全体での協議は1月となっている。全体協議で、今月はAテーマ、来月はBテーマと協議してからグループに別れるのは無理ではないか。

【土屋郁夫委員】

自分たちですべてを決めるわけではない。

【俵木晴之副会長】

それは分かっている。1つのテーマについて、意見交換が1回で終るのかということである。それで済まされるのかということである。今月はAテーマ、来月はBテーマと全体で協議したとして、1つのテーマにつき1回の協議で済まされるのかということである。

【横田佳奈子委員】

時間は2倍になる。

【土屋郁夫委員】

全体協議のやり方で、1回ごとにすべての委員の意見を集めるとすごく時間が掛かる。口頭で話してまとめるのもよいし、地域協議会と地域協議会の間に「こういう資料がある」、「こういう団体がある」、「ここが課題である」等の意見をいろいろ集める。12月の地域協議会ではテーマは分かっているので、皆さんの知恵を出していただいて「このテーマについて、こういったことを知っている」、「こういったことを知りたい」ということを事前に提出していただければ議論はかなり進む。例えば福祉であれば、福祉に詳しい委員もいる。福祉についての将来像、理想的な姿、現状と課題などについて、ある程度の知識がある方の意見を事前に出していただければ、それを事前に頭に入れおきで、それを踏まえて進めるという感じである。経験のある委員はある程度分かると思うが、新しい委員にとってはどのやり方であっても慣れていないと思う。

【小林隆春委員】

これまではどのようなやり方であったのか。

【土屋郁夫委員】

鵜の浜人魚館の活性化について協議していたときは、テーマは1つで2つのグループで協議した。その日の協議後にどのような意見が出たかを発表しあうことを3回くらい行った。全体の発表会を行って、その先に人魚館サポーターズクラブを立ち上げることを決めて実際に活動した。

【佐藤忠治委員】

その前のときは、上越市創造行政研究所の副所長から来ていただき、大潟の人口動態、

歴史や今後の見通しなどの講義を受けてから、2グループに別れてテーマを決めた。初めは何をやったらいいか分からなかったのが、創造行政研究所から来てもらい大潟全体のことについて話してもらった。

【横田佳奈子委員】

創造行政研究所の副所長を呼んだのは何故か。

【佐藤忠治委員】

委員が共通の認識を持って協議しないと、知っている人は知っている人で話をするし、知らない人は協議に入っていけない。

【横田佳奈子委員】

それは若い世代から高齢者のことまで知っている人だから来たということか。

【佐藤忠治委員】

創造行政研修所は、大潟区の人口の経緯とか今後の予測を調査、集計している。

【小林隆春委員】

高齢者が増えるとかこういう問題が出てくる、若者が少ないとかこういう問題が出てくるということを聞いて、そこでテーマが決まるということだ。

【横田佳奈子委員】

私たちが、人口の偏りで困り感がどういったところにあるか想像がつくだろうということか。

【小林隆春委員】

大潟区では今後こういった問題が出てくるであろうという、テーマを決めるための方法として呼ばれたのではないかと想像はつく。

【佐藤忠治委員】

そこで大潟区にはどういった魅力があるかを出し合った。そして、「大潟区の魅力発見・発信について」をテーマとすることに決まった。

【横田佳奈子委員】

4年前に創造行政研究所から来てもらったのか。

【土屋郁夫会長】

その前である。

【俵木晴之副会長】

第4期の地域協議会のときである。

【佐藤忠治委員】

大潟区の魅力発見・発信について協議した結果、大潟区の魅力を伝えるDVDを作成した。

【横田佳奈子委員】

創造行政研究所の話を知っているうえで、今回各委員が出した意見が今の大潟区にそぐわないと思うものはあるか。

【佐藤忠治委員】

そのようなものはない。

【土屋郁夫会長】

今日テーマを決めたとして、それにふさわしい情報を集めるときの段階で、例えば創造行政研究所から来ていただきたいということになれば、全体で聞く意義はあると思う。進め方はたぶん柔軟にできる。まずは当面の間、全体かグループかは分からないが協議をしていく。その協議の合間にも、皆さんから疑問やこういった情報があるということを集めておきたいということである。今時点でいいので、やり方を決めさせてもらっていいか。

【清水徳幸委員】

そもそもテーマは1つの方がいいような気がしてきている。

【佐藤忠治委員】

1つのテーマに取り組んで、終わったら次のテーマに行く。

【土屋郁夫会長】

ただ、せっかく出していただいた意見の中から多数決で1つに決めてしまうことは、私はもったいないという気がする。14人いて1つのテーマをずっとやるのは、この先難しいのではないか。せっかく多くの意見を出していただいた。

【清水徳幸委員】

グループに別れて、それぞれ同じテーマで協議して全体で共有する。

【土屋郁夫会長】

例えば「地域の魅力向上」というテーマに6割の人が賛成して決めてしまうと、「こち

らのテーマをやりたい」という4割の人が、そこに参加する意義が薄れる気がする。

【清水徳幸委員】

そうだろうか。

【俵木晴之副会長】

急がなくていいという語弊があるかもしれないが、スタートして半年ちょっとであり、まだ手探り状態である。しかも同時期に2つのテーマは正直難しいと思う。例えば今年度に1つのテーマをやって、次年度は次のテーマとしてもいいと思う。会長は2つでやると言っているし、先ほどテーマは2つと決まってしまったのでいいのだが、全体で協議するのは難しくなると思う。初めからグループ協議をした方がいいのではないかな。そうしないと進まないと思う。

【横田佳奈子委員】

テーマが2つならグループ協議になるのではないかな。

【佐藤忠治委員】

テーマが2つならグループ協議で1つずつ協議することになる。

【俵木晴之副会長】

先ほどの意見は、2つのテーマがあるが今回は1つ目のテーマで全体協議をする。次の地域協議会では2つ目のテーマで全体協議をする。その後にグループに別れて協議をするということだと思うが、その時間があるのか。いつまでに協議しなければならないということではないが、示されたスケジュールで行くと厳しい。

【横田佳奈子委員】

例えばテーマが2つで、2つのグループに別れたとする。それぞれ有識者に来てもらって話を聞きたいとなった場合、部屋を分けるなどして同時に呼ぶことになるのかな。

【土屋郁夫会長】

調整して来ていただく。

【俵木晴之副会長】

別々に来ていただくことになるのではないかな。有識者の話は全体で聞くべきだ。グループ毎に協議をしても、最後は全体で協議としなければならない。

【横田佳奈子委員】

結局、全体で協議し続けていったら、14人で1つのテーマになるのではないかな。

【俵木晴之副会長】

いや、テーマは2つなので2グループでいい。

【土屋郁夫会長】

グループ協議にするメリットは意見が密になることだ。

【俵木晴之副会長】

それが一番である。

【土屋郁夫会長】

今回は1つ目のテーマ、次回はもう1つのテーマとグループ協議を行うと、1回の実施で相当の意見が出る。2つのテーマを全体でそれぞれ行うとかなり時間が掛かってしまうと言える。だから、テーマは決めていただいたとおり2つにして、どちらの進め方でいくかを決めて、まずはやってみないかということである。やっていく中で、まとめ方などで負担が出てきたら、そこで考えていくしかない。まずはテーマを絞って、グループでも全体でもいいのでやり始めるということで進めたい。まずはテーマを決める。1人1回、取り組みたいテーマに挙手願う。

【横田佳奈子委員】

1人1回だと、それぞれのテーマの中にある意見の数になると思うがどうなのか。

【土屋郁夫会長】

いや、今日欠席の委員もいるのでそうはならない。では、地域の魅力の向上がいいと思う委員は挙手願う。

(4人挙手)

偉人がいいと思う委員は挙手願う。

(1人挙手)

まちづくりがいいと思う委員は挙手願う。

(4人挙手)

福祉がいいと思う委員は挙手願う。

(1人挙手)

では、地域の魅力の向上とまちづくりの2つのテーマで進めたい。今回から2回から3回協議していくこととなるが、全体協議とするか、2つのテーマをそれぞれ1つずつグループ協議とするか。

【金澤信夫委員】

今、地域の魅力の向上とまちづくりという大テーマが決まったが、大テーマを話し合うのか。

【土屋郁夫会長】

そうである。

【金澤信夫委員】

ざっくり言って何を話し合うのか。地域の魅力の向上なら、地域の魅力の向上すべてを話し合うのか。

【土屋郁夫会長】

例えば、「地域の魅力の向上として私はこうなるといいと思う」、「地域の魅力の向上にはこういった課題がある」ということをまずは出していただきたい。それを全体で出すのか、グループに別れて出すのかである。大テーマの中には、皆さんからの意見があるので、それを具体的にしてもらってもいい。来年度予算には間に合わないが、「私は再来年にいろいろな団体と取り組みたい」といった意見でもいい。各委員が持っている意見を出してもらいたい。よろしいか。

【金澤信夫委員】

よく分からない。

【土屋郁夫会長】

意見がなければなしでもいい。

【金澤信夫委員】

その立場で考えたとき、そのテーマで話し合ったときに何を話せばいいのかピンとこない。地域の魅力の向上について話をしましょうといったときに何を言っているのかよく分からない。

【土屋郁夫会長】

それは個人的な意見なので、そこまでにさせてもらう。今日は地域協議会終了後に充実した話合いに向けた研修も予定されているので、話し合いのやり方等を次回以降の協議に活かしていただきたい。まずは、決めていかないことには何も進まない。一人一回挙手を願う。まずは、2つのテーマを全体で進めるやり方がいいと思う委員は挙手願う。

(4人挙手)

では、テーマごとにグループを作って進めたほうが良いと思う委員は挙手願う。

(6人挙手)

では、次回からはグループに別れてテーマについて協議を進めていくことにしたい。

【佐藤忠治委員】

2つのテーマについて、各々どちらかのグループに入ることか。

【土屋郁夫会長】

そうである。

【俵木晴之副会長】

テーマを2つに絞るときに挙手した項目のグループに入ることになると思うが、テーマとならなかった項目に挙手した委員と欠席の委員はどちらかのグループに入ってもらえることになる。なるべく人数を均等にしないといけない。

【土屋郁夫会長】

これから3回くらいの地域協議会で、なるべく共通の認識を持つことは皆さんにお願いしたいことである。まずは、グループのメンバーを確定させたい。地域の魅力の向上のグループを希望される方は挙手願う。

(天野委員、金澤委員、小林委員、佐藤委員、清水委員、俵木副会長が挙手)

では、まちづくりのグループを希望される方は挙手願う。

(押見委員、新保委員、竹田委員、横田委員が挙手)

副会長が地域の魅力の向上のグループなので私はまちづくりのグループに入る。欠席の委員には事務局から連絡を取っていただき入るグループを決めていただく。

【清水徳幸委員】

地域の魅力の向上とまちづくりそれぞれのグループで、同じような内容の話になる場合もあるのではないか。

【土屋郁夫会長】

そうなのでも良いと思う。出ている意見以外に考えがあったり、意見が変わったりした場合は、事前に提出していただくということで進めていきたい。以上で協議事項(1)今後の地域協議会での取組事項についてを終了する。

その他に入る。まずは、11月16日(土)に開催された頸北地区地域協議会委員合同研修会について報告する。大湊区からは4人が参加した。席が5つのグループに別れ

ており、他の区の委員と意見交換できるやり方を取っていただいた。市からは地域政策課長から来ていただき、地域自治推進プロジェクトの概要について説明を受けた。各委員からは、「会長会議が開催されていないため、開催をして欲しい」という意見や、「地域自治推進プロジェクトが進んでいるが、いつ頃地域協議会に示したり、市民と打ち合わせするのか」という質問もされた。これについては、持ち帰って検討していただくことになったので動きがあれば皆さんに報告したい。

【俵木晴之副会長】

6人ぐらいずつの5つのグループで意見交換を行った。地域協議会の理想的な姿と地域自治の活動を活性化する予算の理想的な姿についての2つからグループで選んだテーマについて意見交換をした。他区の進んでいるところの意見も聞けたが、改選により多くの委員が入れ替わったことで同じような悩みをもっているところもある。参加委員は30人であった。来年は柿崎区が会場で再来年は大潟区が会場となる。柿崎区の会長からは大潟区からももっと参加いただきたいという話もあった。このような研修会は、事前に日程等が案内されるので皆さんの参加をお願いしたい。懇親会にも参加したが、その場でもいろいろな話ができてよかったと思う。

【佐藤忠治委員】

体調を崩して懇親会には参加できず残念であった。研修会では吉川区や頸城区の委員と顔を合わせることができ良かった。協議の時間が短く30分程度しかなかった。講演の短くして意見交換の時間を長くしていただきたいかった。

【土屋郁夫会長】

次に事務局から連絡事項がある。

【風間班長】

大潟区新年祝賀会の案内を配付した。主催は、大潟区町内会長協議会、まちづくり大潟、大潟区地域協議会となる。また、上越市新年祝賀会が1月6日（月）にリージョンプラザで開催予定である。上越市創造行政研究所からのチラシも配布したのでご確認いただきたい。視察研修であるが、中郷区のさとまる学校にという声があった。さとまる学校に打診をして了解をいただいている。時期については雪の時期を過ぎてからという話をしており、「お待ちしている」とのことである。今後の協議で聞きたいこと等が煮詰まった段階で具体的な話をさせていただきたい。

【土屋郁夫会長】

委員から連絡事項等がなければ次回の日程について事務局から説明願う。

【池田次長】

次回は、12月19日（木）午後7時から第8回地域協議会を大潟コミュニティプラザ2階大会議室で開催する。

【土屋郁夫会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL：025-534-2111（内線 201、216）

E-mail：ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。